

# 「令和6年度学校経営方針」の策定にあたって

## 1 はじめに ～令和の日本型学校教育の構築～

私たちが生きる21世紀は、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」、新型コロナウイルスの感染拡大などに見られた先行き不透明な「予測困難な時代」と言われています。このような時代を自分らしく力強く生き抜くためには、「一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともにあらゆる他者を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる力」が必要です。

私たち教職員には、必要な改革を躊躇なく進めることで従来の日本型学校教育を発展させ、すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを推進しながら「令和の日本型学校教育」を実現させることが求められています。

## 2 統合中学校に対する地域の願い ～地域ともにある学校づくり～

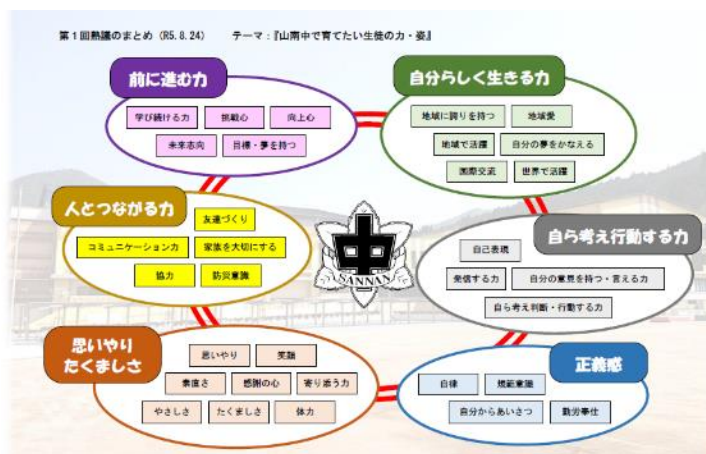
平成23年6月にはじまった「山南地域のこれからの教育を考える会」の提言を受け、「統合準備委員会」が設置され、山南中学校・和田中学校の統合に向けた協議がすすめられました。地域の様々な立場の方々が何度も足を運び、時間をかけて、新しい学校の在り方を決めてきました。平成31年3月の新校舎建設場所決定後も、遠距離通学支援策をはじめ、制服、校歌、校章、PTAの在り方、等について協議されてきました。

そして迎えた令和5年4月、山南中央公園跡地に新山南中学校が開校しました。温もりのあるアースカラーの外観や丹波市産の木材や伝統技術が施された内装とともに、すべての普通教室にプロジェクターが標準設置される等、親しみのある新しい学びに対応する環境となっています。新山南中学校には、山南地域をひとつにつなぐことと同時に、過去と未来の架け橋となることが期待されています。



熟議の様子

この思いを形にするため、地域と学校をつなぐ取組をすすめました。8月には、地域住民や保護者の代表、教職員が集まり、ともに山南中で学ぶ子どもたちの未来の姿を見据えた熟議を開催しました。これを受け、学校運営協議会を立ち上げました。今後は、これまで以上に学校・保護者・地域が力を合わせ、子どもたちを真ん中に置いて、地域ともにある学校づくりをすすめていきます。



熟議のまとめ「山南中学校で育てたい生徒の姿」

### 3 自分たちの学校は自分たちでつくる ～生徒の取組～

令和3年度に入学した生徒たちは、統合した新山南中学校の初年度に、3年生として学校を支え引っ張る存在になることが決まっていた。統合前の2校の教職員はそれを見越し、新たな学校の基盤づくりに生徒自身が関わられるよう、1年生の時から合同の行事を行ったり、生徒会組織や生徒心得づくりに関わらせたりしてきました。生徒たちの中にも徐々に「自分たちで新しい学校をつくる」という気運が芽吹いてきました。隣同士の学校ではあったものの、それぞれが育んできた歴史や文化は異なります。専門委員会ひとつ取っても、名称や役割は違っており、その調整にはエネルギーを要しました。しかし、その取組の積み重ねによって、新しい学校の基盤づくりがスムーズにすすんでいます。人権を大切にしてきたという共通の風土もその支えになっています。

体育祭や文化祭などの行事、日頃の委員会活動、学級活動、部活動、そして日々の学習活動(授業)。指示を待って行動するだけでなく、自分たちで考えてよりよいものをつくる。この意識こそ、新しい学校の文化となっていきたいものです。

### 4 自分たちの学校は自分たちでつくる ～教職員は臨機応変に～

覚悟はしていたものの、新しい学校のスタートにはかなりのエネルギーを必要としました。移動した物品の整理や新しい備品の活用、職員組織やシステムづくり、生徒の実態把握等々。どこに何があるのか、誰に聞いたらわかるのか。あまりに勝手が違いすぎ、軌道に乗るまでにかなりの時間を必要としました。計画していた通りにできないこともありました。特にバス通学にあたっては、路線バスを活用するということもあり、乗車マナーの徹底をはじめ、運行ダイヤに合わせて校時を調整することや臨時便の活用の在り方等、課題も多いのが現状です。しかし、教職員一人ひとりがよりよい学校の在り方を考えることで、新しいアイデアが生まれ課題解決につながってきています。これからも「自分たちでつくる」という姿勢で学校づくりに取り組みたいです。



教職員熟議の様子

### 5 令和6年度に向けて

8月に開催した「熟議」や今年度の取組、生徒の実態等を踏まえ、次年度に重点的に取り組むべき事柄について協議する「教職員版熟議」を行いました。新しい学校の運営にあたっては、所属する職員全員がそれぞれの役割を果たしつつ、「こうしたらもっとよくなる」「自分にできることはないか」「こんな学校にしたい」等の意識を持って、主体的に関わっていくことが必要です。そこで大切になるのは「目標の共有」と「役割分担」です。普段から何でも話し合える雰囲気づくり、お互いを信頼し支え合える仲間づくりをすすめるとともに、学校づくりを通して私たち教職員自身も成長していきたいです。

「教職員版熟議」で協議した内容等を踏まえ、令和6年度山南中学校の学校運営方針・重点取組事項をまとめました。これに基づき、学校運営協議会とも連携しながら、教職員が一丸となって学校づくりをすすめていきたいと思います。



**【生徒の姿】**

- ・規範意識が高く、あたり前のことをあたり前にできる
- ・仲間を大切にし、協力しながら様々な活動に取り組むことができる
- ・真面目な態度で学習に取り組めるが、主体的、計画的な学びとしては課題が残る
- ・自分の考えを主張するより、周囲に合わせようとする



**【保護者・地域の願い】**

- ・自分で考え、判断し、行動できる人になってほしい
- ・思いやりのある人になってほしい
- ・家族、友達、地域を大切にしてほしい
- ・夢や目標を持ち、それに向かって努力し続けてほしい

**【兵庫県基本理念】**

兵庫が育む ところ豊かで自立する人づくり

**【丹波市基本目標】**

地域に誇りを持ち 自分たちの未来を創る人づくり



**【学校教育目標】**

**地域に誇りを持ち 豊かな人生を切り拓く生徒の育成**

～ふるさと山南で育む つなぐ・ひろげる・つくりだす力～

**【めざす生徒の姿】**

- ・自らの目標に向かって学び続ける生徒
- ・自分で考え、判断し、行動できる生徒
- ・多様な人々と協働しながら困難に立ち向かえる生徒
- ・自分も他者も大切にできる生徒
- ・地域、社会に貢献できる生徒



**【めざす教職員の姿】**

- ・生徒一人ひとりのよさを最大限に引き出し、主体的な活動を支援する教職員
- ・学校教育を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、学び続ける教職員
- ・家庭や地域と連携しながら学校づくりにチームで取り組む教職員
- ・教育者としての誇りをもって働く教職員



**重点的に取り組む4項目**

**【すべての生徒が安心して  
学び生活できる居場所づくり】**

- ・生徒の内面理解に基づく対話を大切にした指導の充実
- ・いじめを許さず不登校を生まない取組の充実
- ・一人ひとりが認められ自己有用感を感じる自治活動の充実

**【生涯学び続けるための  
基盤となる力の育成】**

- ・授業のUD化に基づくすべての生徒が意欲的に取り組む授業づくり
- ・自らの課題解決に向け、自分自身で学びをマネジメントする力の育成
- ・自ら学び、難しいことにも挑戦しようとする態度の育成

**【教職員の組織力向上と  
業務改善、人材育成】**

- ・風通しのよい職場風土の醸成と校内組織の活性化
- ・ワークライフシナジーの実現につながる働き方改革の推進
- ・研修機会の充実とその活用促進

**【地域資源を生かした  
キャリア教育の推進】**

- ・地域の「ひと・こと・もの」を生かしたアントレプレナーシップ教育の推進
- ・地域や社会に貢献しようとする態度の醸成
- ・学校運営協議会を核とした地域との連携充実



# 令和6年度 重点取組項目に関する具体的な手立て

## 1 すべての生徒が安心して学び生活できる居場所づくり

- (1) 生徒の内面理解に基づく対話を大切にした生徒指導
  - ・傾聴を心がけ、生徒一人ひとりを「認める」「褒める」「伸ばす」指導の徹底
  - ・生活指導委員会を核とする組織的な校内体制の充実
  - ・定期的な生活アンケートと生徒面談の実施
- (2) いじめを許さず、不登校を生まない取組の充実
  - ・些細な変化を逃さない未然防止、早期発見、即対応
  - ・同和、平和を核とする人権課題解決に生徒主体で取り組む活動の充実
  - ・教育支援センター「レインボー」をはじめとする関係機関との連携強化
- (3) 生徒一人ひとりが認められ自己有用感を感じる自治活動の充実
  - ・生徒会活動を中心とした生徒自身が主体的に取り組む活動の充実

### 【評価指標】

- 「困りごとや悩みごとを相談できる先生がいる：80%」（年度末：生徒アンケート）
- 「不登校：前年度より減、新規不登校：0」（年度末：実人数）
- 「山南中の生徒でよかったと思う：100%」（年度末：生徒アンケート）

## 2 生涯学び続けるための基盤となる力の育成

- (1) 授業のUD化に基づく生徒が意欲的に取り組む授業づくり
  - ・校内研修推進と個々の課題に対応した具体的支援策の共有
  - ・探求型授業の展開
  - ・各種調査結果に基づく基礎基本の確実な定着
- (2) 学びのマネジメント力の育成
  - ・生徒一人ひとりの課題確認と目標設定（目標達成シートの活用）
  - ・「何を」「いつ」「どれだけ」学習するのかを可視化した学び方の構築
- (3) 自ら学び、難しいことにも挑戦しようとする態度の育成
  - ・英検チャレンジ事業等、自ら学ぶ機会の活用
  - ・「丁寧な指導」から「適切な支援」への転換

### 【評価指標】

- 「もっと学習したい、わかりたいと思う：80%」（年度末：生徒アンケート）
- 「自分の課題に応じたやり方で計画的に学習している：80%」（年度末：生徒アンケート）
- 「難しいことでもあきらめずに挑戦している：80%」（年度末：生徒アンケート）

## 3 教職員の組織力向上と業務改善、人材育成

- (1) 風通しのよい職場風土の醸成と校内組織の活性化
  - ・校内組織を生かした教職員の協働体制の充実
  - ・会議時間、協議内容を明確にした計画的な会議の開催  
（時間割内に時間設定、年間行事予定表に明記）

- (2) ワークライフシナジーの実現につながる働き方改革の推進
- ・タイムマネジメントによる「時間」を意識した働き方の推進（記録簿の活用）
  - ・超過勤務時間の縮減
- (3) 研修機会の充実
- ・研修委員会を中心にした計画的な研修会の開催
  - ・OJT、自主研修の奨励

【評価指標】

- 「校務分掌に基づき、教職員全員で組織的・協働的に教育活動に取り組んでいる：80%」（年度末：教職員アンケート）
- 「超過勤務時間：前年度比マイナス10%」（年度末：実時間数）
- 「自己研鑽に努めている：80%」（年度末：教職員アンケート）

#### 4 地域資源を生かしたキャリア教育の推進

- (1) 地域の「ひと・こと・もの」を生かしたアントレプレナーシップ教育の推進
- ・地域課題から自らの取組を考え、発信する機会の充実
  - ・山南中版アントレプレナーシップ教育の確立
- (2) 地域や社会に貢献しようとする態度の醸成
- ・トライやる・ウィークの実施や地域行事への参加等、生徒が地域で活動する機会の充実
  - ・PTAと連携した取組の充実
- (3) 学校運営協議会を核とした地域との連携充実
- ・学校と地域をつなぐ山南中版学校運営協議会の確立
  - ・学校行事やオープンスクール等、教育活動の積極的な公開と学校ホームページ、通信の充実

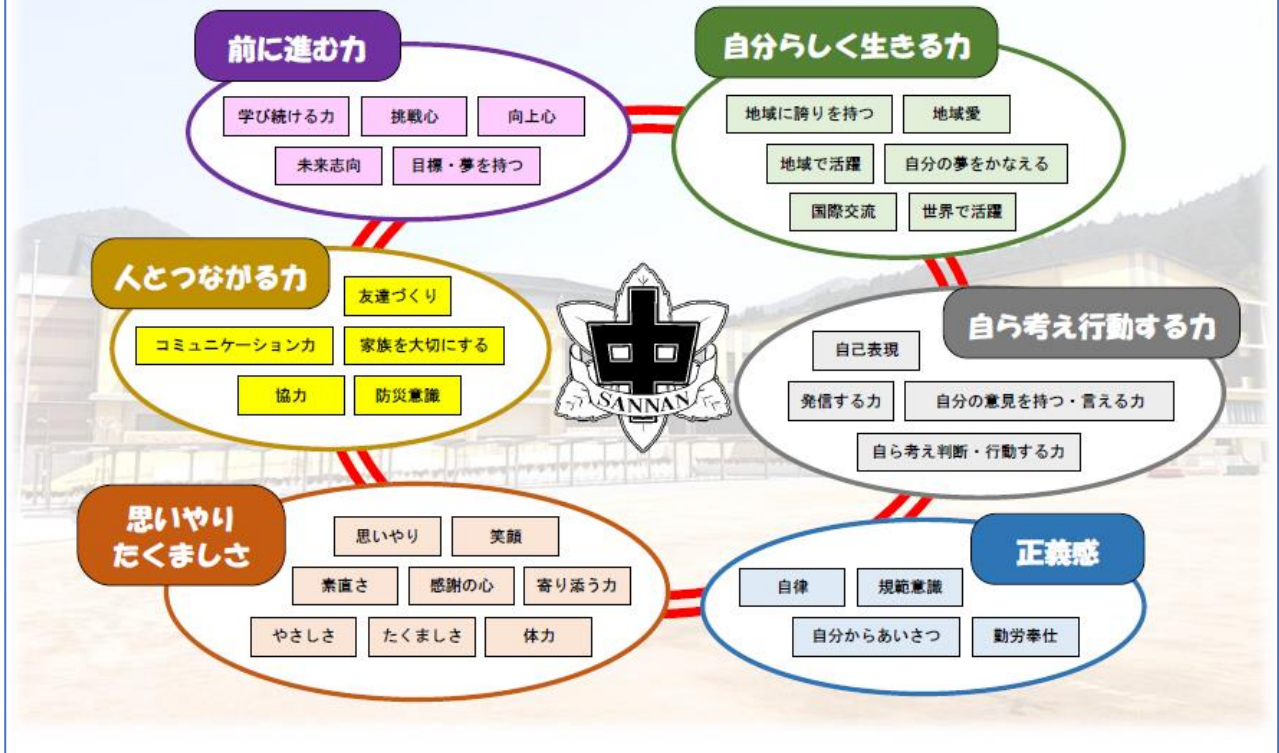
【評価指標】

- 「保護者、地域等と連携して教育活動をすすめている：80%」（年度末：教職員アンケート）
- 「学校の様子を学校だよりや学年・学級通信、HP等により知ることができる：80%」（年度末：保護者アンケート）
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある：80%」（年度末：生徒アンケート）



## 学校職員・保護者・地域住民代表熟議のまとめ

第1回熟議のまとめ (R5. 8. 24) テーマ：『山南中で育てたい生徒の力・姿』



## 学校職員熟議のまとめ

